

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		中村 英詞		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	芸術専門課程	スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース		平成26(2014)年度	-	平成27(2015)年度		
学科の目的	スポーツイベントの企画・運営やスポーツグッズの販売、スポーツ施設やショップの経営・マネジメント、スポーツ観光、出版・メディアなどといった、スポーツビジネスのさまざまなシーンで活躍するスタッフやプロをめざします。在学中からスポーツショップでの販売やスポーツイベントの企画を経験することで、スポーツの現場の臨場感と興奮を実感しながら実践的に学習。また、多彩なビジネスシーンで役に立つ資格の取得対策や、国際化に対応するための英語の授業も用意しています。ICTを軸にビジネススキルや発想力といった専門力だけでなく、協調性や自立性といった人間力も身につけ、業界から必要とされる人材を育成することを目的としています。 さらに三年制では、インターンシップや資格取得などにも積極的に挑戦。柔軟な発想力とユーザー体験思考を最大限に生かしたスポーツ経営力を身につけます。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)	スポーツイベント検定、販売士検定、国内旅行業務取扱管理者、日商簿記検定3級、MOS検定、ビジネス能力検定ジョブパス3級 中退率：4%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,400 単位時間	1,860 単位時間	180 単位時間	1,500 単位時間	0 単位時間	690 単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率	
120 人の内数	29 人		0 人		0 %		4 %	
就職等の状況	■卒業者数(C) : 8 人							
	■就職希望者数(D) : 8 人							
	■就職者数(E) : 8 人							
	■地元就職者数(F) : 6 人							
	■就職率(E/D) : 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 75 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 %							
	■進学者数 : 0 人							
	■その他							
	(令和 6 年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) ゼビオ㈱、ABCMART、㈱シズオクト、ミズノスポーツサービス、STEPJAPAN、Birth47、Fosbury、LACOSTE、横浜市スポーツ協会								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 特定非営利活動法人 私立専門学校 等評価研究機構 受審年月： 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/departmentsports/health/business/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		4,200 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		1,890 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数		単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
	うち必修授業時数		単位					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人					
	計		4 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツビジネスの関連分野について企業や行政へのヒヤリングを実施しながら、実務に関する知識や必要とされる技術等を調査して、授業内容や科目構成を年度ごとに見直す。協力企業・団体については、学内外の実習設備や施設等を活用して、講師の派遣と年間を通じた定期的指導や評価が出来るかどうかを条件としてスポーツビジネス関連業界より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
宮下 卓也	一般社団法人 スポーツ振興地域開発機構マネージャー	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
伊藤 達也	株式会社サス・スポーツプロダクト代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
宇都宮 仁	ゼット株式会社取締役執行役員	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院八王子専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・8月)

(開催日時(実績))

第1 回 令和6年09月04日 11:00～13:00

第2 回 令和7年03月04日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

スポーツビジネス分野で活躍できる人材教育として、PCスキル・動画作成・コミュニケーション能力を高める必要がある。イベント実習を通じてそれらを「感じ・学び」、日々の授業に落とし込む。学科の価値・強みを時代の流れやニーズとともにブラッシュアップし、カリキュラム構成・指導に反映する。学生が一つでも強く興味を持てる分野を体験を軸にカリキュラムを作り、生き活きとした明るく積極性のある人材を教育する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。1年次においては、「スポーツプロジェクト1・2」にて、イベントの組み立て方を学び、発案力や協調性、そしてコミュニケーション能力を身に付け、オープンキャンパスなどでイベントを行ったり、プロスポーツチームとの連携で外部での実習を行う。2年次においては、「スポーツプロジェクト3・4」にて、スポーツビジネスの実践的な課題を実施する上で必要な基礎的な販売促進やマーケティング、地域連携、施設活用等に関する応用知識を学び、学生自身が自主運営できるような課題設定を行っている。3年次では「スポーツプロジェクト5・6」の授業内にて、プロスポーツチームのプロモーションに関する活動やコラボレーションイベントの企画・運営を中心に、景品やノベルティグッズのデザインや制作、イベント来場者の接客対応を含めたコミュニケーションなどを行い、イベント実施後の問題点の検討や改善について、学生を含めた連携先のスポーツチーム担当者への報告と協議を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
スポーツプロジェクト 1・2	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	イベント企画・提案を行うための基礎知識を身につけながら、レクリエーションアクティビティの企画・提案を行い、実際に実施することで実践的なノウハウを身につけます。	株式会社SVOLME

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
 (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	スポーツ×ICT・ICT I	連携企業等:	(公財)日本サッカー協会 大塚慶輔
期間:	令和6年9月20日 10:00-12:00	対象:	スポーツ教員
内容	遠隔での指導・商品紹介と使い方		
研修名:	スポーツ×ICT・ICT II ～スポーツ界で求められる人材の育	連携企業等:	(公財)日本サッカー協会 大塚慶輔
期間:	令和7年3月3日10:00-12:00	対象:	スポーツ教員
内容	遠隔での指導と実例		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	救急体制と対応について	連携企業等:	国士館大学防災・救急 救助総合研究所 曾根悦子
期間:	令和5年9月4日 15:30-17:30	対象:	スポーツ教員
内容	①安全な学校生活の環境整備や体制 ②救急事例と対応		
研修名:	スポーツ系学校における救急体制と対応について II	連携企業等:	国士館大学防災・救急 救助総合研究所 曾根悦子
期間:	令和6年3月5日15:30-17:00	対象:	スポーツ教員
内容	①救急事例と対応②救急対応と法的問題 ③職業教育を実施する教員として備えるべき救急対応に関しての能		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	プロスポーツチームのビジネス最前線①	連携企業等:	株式会社アルファーズ 代表取締役社長 上原和人
期間:	令和7年9月17日 15:00-17:00	対象:	スポーツ教員
内容	プロバスケットB1チームの運営と取り組み		
研修名:	プロスポーツチームのビジネス最前線②	連携企業等:	株式会社アルファーズ 代表取締役社長 上原和人
期間:	令和8年3月を予定	対象:	スポーツ教員
内容	プロバスケットB1チームの運営と取り組み		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学生の自立を促す指導①	連携企業等:	国士館大学体育学部 教授 体育学部部長 古田 仁志
期間:	令和7年9月19日 15:00-17:00	対象:	スポーツ教員
内容	主体性を促す指導・コーチング		
研修名:	学生の自立を促す指導②	連携企業等:	国士館大学体育学部 教授 体育学部部長 古田 仁志
期間:	令和8年3月を予定	対象:	スポーツ教員
内容	主体性を促す指導・コーチング		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議における、本校の自己点検に対する評価委員からの主な意見と、それに対する本校の対応(活用)方法は以下のとおりです。

1. 留学生支援・国際交流の充実
- 評価委員からは、留学生の増加に伴い、日本語学習の困難や文化的背景への配慮が必要であるとの指摘があり、非漢字圏の学生への対応や語学支援の強化が求められています。また、英語圏以外の国々からの学生が増えていることを踏まえ、国際交流や交換留学制度の整備、Zoom等を活用した海外との交流機会の創出が望ましいとの意見がありました。
2. 教育内容・学習環境の向上
- 委員からは、学生の作品の質が年々向上していることが評価される一方で、医療分野におけるAI活用など、より実践的な教育内容の充実が求められています。また、番組制作やカメラ・照明などの職人的分野では、現場での学びが重要であり、専門学校としての強みを活かすべきとの指摘がありました。加えて、教職員のデジタル知識の向上が必要であるとの意見も示され、ICT活用の推進が課題とされています。
3. 地域連携・社会とのつながり
- 地域との連携については、ボランティアやアルバイトなど地域密着型の活動を経験している学生が多く、これを学校の特色として活かすべきとの指摘がありました。また、地域のスポーツ団体とのマッチング機会の創出や、予算面での課題を踏まえた地域活動の工夫が求められています。
4. 多様な学習者・進路支援への対応
- 委員からは、総合型入試を活用する学生の増加や、資格取得を通じた進学支援の必要性が指摘されました。さらに、社会人が専門学校で学び直す際には、資格取得が可能な環境整備や、異なる年齢層が共に学ぶことによる相互刺激の価値を重視すべきとの意見があり、多様な学習者に対応する柔軟な教育体制の構築が求められています。
5. 学生支援・メンタルヘルスの充実
- 学生が安心して学べる環境づくりに向けて、メンタルヘルス支援の充実が必要であるとの指摘がありました。言葉の掛け方によって学生の反応が変わることから、教職員の対応力向上も重要視されています。また、健康面での支援体制の強化や、個々の学生に応じた支援のあり方についても、今後の検討課題として挙げられています。

以上の内容を踏まえ、学校関係者評価委員会において討議された事項に基づき、次の5項目について検討を行い、今後の取組に活用してまいります。

- ・日本語教育の強化や海外との交流機会の創出、国際連携の推進など、留学生がより学びやすい環境づくりについて今後の整備を検討します。
- ・地域企業や団体との協働、地域イベントへの参加促進などを通じて、学生の実践力育成と学校の地域貢献を目指す取り組みを模索しています。
- ・教職員のICTスキル向上や授業のデジタル化、学生成果の外部発信など、教育の質を高めるための環境整備を段階的に実施していきます。
- ・社会人や非全日制学生への柔軟な学習支援、資格取得支援制度の整備など、多様な学びのニーズに応える体制づくりを今後の課題としています。
- ・メンタルヘルス支援や多言語対応、個別支援の充実など、学生が安心して学べる環境の構築に向けた取り組みを引き続き検討していきます。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
オ丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和7年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和6年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ビジネススキル 1	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	1	30	2	○			○		○		
2	○			P C活用 1	ビジネス実務上、必須となるWordの基本的な使用方法とその応用について学びます。	1	30	2		○		○			○	
3	○			ビジネスプレゼンテーション 1	自分を取り巻く諸事情を理解するため必要な言語的、数学的思考法についての復習を行い、社会人として求められるヒューマンスキルの習得を目指します。	1	30	2	○			○		○		
4	○			企業・業界研究	変革を続けるスポーツ業界の中で、企業が求める人材像の変化について学びます。	1	30	2	○			○		○		
5	○			デジタルマーケティング 1	最新のデジタルテクノロジーを使った顧客とのエンゲージメント方法やコミュニケーション手法を学習します。	1	30	2	○			○			○	
6	○			スポーツプロジェクト 1	イベント企画・提案を行うための基礎的な知識を身につけながら、地域スポーツやアウトドア実習等と関連させたレクリエーションアクティビティの企画・提案を行います。	1	120	8		○		○		○	○	○
7			○	販売士検定対策講座	販売士検定資格の取得に向けた試験対策授業を行います。	1	30	2	○			○			○	
8			○	スポーツイベント検定対策講座	日本イベント産業振興協会が認定するスポーツイベント検定の資格取得を目標とし、より適切で効果的なイベントを実施するために必要な基礎知識について体系的に学びます。	1	30	2	○			○			○	
9	○			スポーツ実技 1	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	1	30	1			○	○			○	
10		○		インターンシップ 1	就職活動に有益となる業界知識の習得や業務内容の体験を行います。必※	1	90	3			○		○	○		
11	○			販売・マーケティング理論 1	販売に関する商品知識、接客技術を身に付け、実際のモノ作りやブランド作成を行います。	1	30	2	○			○	○	○		
12			○	レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方と、さまざまな場面での運動方法を学びます。	1	30	1			○	○		○		
13			○	フィンワーク実習	プールにて3点セット（マスク、フィン、スノーケル）を使用し、フィンワーク（泳ぎ方、素潜り）技術を養います。	1	30	1			○	○			○	
14	○			ビジネススキル 2	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	1	30	2	○			○			○	
15	○			P C活用 2	ビジネス実務上、必須となるExcelの基本的な使用方法とその応用について学びます。	1	30	2		○		○			○	

16	○		ビジネスプレゼンテーション2	自分を取り巻く諸事情を理解するため必要な言語的、数学的思考法についての復習を行い、社会人として求められるヒューマンスキルの習得を目指します。	1	30	2	○			○		○		
17		○	スポーツ用品論	スポーツ産業を構成する諸産業に分解し、特にスポーツ用品の小売りに焦点をあて、産業構造、商品特性、流通のしくみについて解説します。	1	30	2	○			○		○		
18	○		デジタルマーケティング2	SNSやデジタルメディアを駆使したマーケティング戦略を理解し、スポーツイベントやオンラインイベントの企画や運営への活用方法を学びます。	1	30	2	○			○			○	
19	○		スポーツプロジェクト2	イベント企画・提案を行うための基礎的な知識を身につけながら、地域スポーツやアウトドア実習等と関連させたレクリエーションアクティビティの企画・提案を行います。	1	120	8	○			○	○	○	○	○
20	○		MOS対策	マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)の取得に向けた試験対策授業を行います。	1	30	2		○		○			○	
21	○		スポーツ実技2	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	1	30	1			○	○		○		
22		○	スポーツボランティア実習1	ボランティア活動等に参加し、業界知識の習得や業務内容の体験を行います。選※	1	30	1			○		○	○		
23		○	スポーツ自由研究A	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	1	30	1			○		○	○		
24		○	スポーツ自由研究B	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	1	30	1			○		○	○		
25		○	キャンパインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。選※	1	30	1			○		○		○	
26		○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。選※	1	30	1			○		○		○	
27		○	初級ダイビング実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。選※	1	30	1			○		○		○	
28		○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	1	30	1			○		○		○	
29		○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	1	30	1			○		○		○	
30		○	中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。選※	1	30	1			○		○		○	
31		○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	15	0			○	○			○	
32		○	キャリアアップセミナーB	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	30	1			○	○			○	

33		○	キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	45	1			○	○			○	
34		○	キャリアアップセミナーD	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	60	2			○	○			○	
35		○	短期海外研修A	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。選※	1	60	2			○		○	○		
36		○	MFCスタッフ実習1	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。選※	1	120	4			○	○		○		
37	○		ビジネススキル3	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	2	30	2	○			○		○		
38	○		PC活用3	ビジネス実務上、必須となるPowerPointの基本的な使用方法とその応用について学びます。	2	30	2		○		○			○	
39	○		スポーツプロジェクト3	キャンパス周辺に存在する地域資源に関する情報を収集し、地の利を活用した健康増進に繋がるアクティビティプログラムの設計を行います。	2	150	10	○			○	○	○		
40	○		メディア活用企画・演習	インタビュー調査方法を例として取り上げ、読者や視聴者へのオーディエンス分析を行い、メディアコンテンツの生産方法とその報道過程を体験します。	2	60	4	○			○			○	
41	○		簿記検定対策講座1	簿記資格受験に求められる基礎知識を習得します。	2	30	2	○			○			○	
42		○	スポーツトレンド研究1	時代とともに生み出される新しいスポーツ種目（例：SAP、eバイク、ライフキネティック、eスポーツなど）を取り上げ、それらの種目に含まれるアクティビティ要素や運動効果を研究・体験しながら、これからのスポーツアクティビティの動向や方向性について学習します。	2	30	2	○			○		○		
43	○		スポーツ実技3	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	2	30	1			○	○		○		
44		○	インターンシップ2	就職活動に有益となる業界知識の習得や業務内容の体験を行います。必※	2	60	2			○		○	○		
45	○		ビジネススキル4	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	2	30	2	○			○				
46	○		PC活用4	PC活用1～3で習得した知識と技術を応用して、ビジネスプレゼンテーションに向けた資料作成と発表を行い、効果的なプレゼンテーション方法を学びます。	2	30	2		○		○		○		
47		○	スポーツ社会学	健康増進、経済活性化、国際競技力の向上といった日本のスポーツ振興に関わる政策の方向性や人権や公正といったスポーツに関わる法律や指針について学びます。	2	30	2	○			○			○	
48	○		販売・マーケティング理論2	販売に関する商品知識、接客技術を身に付け、実際のモノ作りやブランド作成を行います。	2	30	2	○			○		○		
49	○		映像・画像技術演習	商品のプロモーションや顧客とのコミュニケーションに有効な画像技術（例：ホームページ作成、パワーポイント作成、SNS、動画作成など）の活用方法について学びます。	2	30	2	○			○		○		
50	○		スポーツプロジェクト4	キャンパス周辺に存在する地域資源に関する情報を収集し、地の利を活用した健康増進に繋がるアクティビティプログラムの設計を行います。	2	150	10	○			○	○	○		

51		○	簿記検定対策講座 2	簿記検定 3 級資格受験に向けた専門的知識を習得します。	2	30	2	○			○			○	
52	○		スポーツ実技 4	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	2	30	1			○	○		○		
53		○	スポーツボランティア実習 2	ボランティア活動等に参加し、業界知識の習得や業務内容の体験を行います。選※	2	30	1			○			○	○	
54		○	スポーツ自由研究 C	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	2	30	1			○			○	○	
55		○	スポーツ自由研究 D	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	2	30	1			○			○	○	
56		○	キャンプインストラクター実習 B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。選※	2	30	1			○			○		○
57		○	マリン実習 B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。選※	2	30	1			○			○		○
58		○	スキー実習 B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。選※	2	30	1			○			○		○
59		○	スノーボード実習 B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	2	30	1			○			○		○
60		○	キャリアアップセミナー E	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	15	0			○	○				○
61		○	キャリアアップセミナー F	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	30	1			○	○				○
62		○	キャリアアップセミナー G	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	45	1			○	○				○
63		○	キャリアアップセミナー H	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	60	2			○	○				○
64		○	短期海外研修 B	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。選※	2	60	2			○			○	○	
65		○	MFC スタッフ実習 2	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。選※	2	120	4			○	○			○	
66	○		ビジネススキル 5	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	3	30	2	○					○		○
67		○	スポーツ時事 1	スポーツビジネスに関する最近の動向や傾向に着目し、それらがもたらす社会的な影響等について理解を深めます	3	30	2	○					○		○
68	○		スポーツトレンド研究 2	時代とともに生み出される新しいスポーツ種目（例：SAP、eバイク、ライフキネティック、eスポーツなど）を取り上げ、それらの種目に含まれるアクティビティ要素や運動効果を研究・体験しながら、これからのスポーツアクティビティの動向や方向性について学習します。	3	30	2	○					○		○

69	○		PC活用5	コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーションが及ぼす社会的、心理的影響について検討し、新たなニーズを開拓していくためのビジネスソリューションを発展させていきます。	3	30	2	○		○	○		
70	○		スポーツプロジェクト5	これまでのスポーツに関する既存概念に捕らわれない体験型プロジェクトを立ち上げ、アクティビティ参加の機会提供とイベント運営を計画します。	3	150	10	○		○	○	○	○
71	○		スポーツツーリズム研究1	スポーツと観光のそれぞれの事業効果を融合させながら、来訪者の獲得や経済活性化に成功している地域事例を学びながら、将来的なスポーツ観光事業の可能性について考察を進めます。	3	60	4	○		○	○	○	
72		○	スポーツ実技5	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	3	30	1		○	○		○	
73	○		ビジネススキル6	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	3	30	2	○		○		○	
74		○	スポーツ時事2	スポーツビジネスに関する最近の動向や傾向に着目し、それらがもたらす社会的な影響等について理解を深めます	3	30	2	○		○			○
75	○		PC活用6	コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーションが及ぼす社会的、心理的影響について検討し、新たなニーズを開拓していくためのビジネスソリューションを発展させていきます。	3	30	2	○		○		○	
76	○		スポーツプロジェクト6	これまでのスポーツに関する既存概念に捕らわれない体験型プロジェクトを立ち上げ、アクティビティ参加の機会提供とイベント運営を計画します。	3	150	10	○		○	○	○	○
77	○		スポーツツーリズム研究2	スポーツと観光のそれぞれの事業効果を融合させながら、来訪者の獲得や経済活性化に成功している地域事例を学びながら、将来的なスポーツ観光事業の可能性について考察を進めます。	3	60	4	○		○	○	○	
78		○	スポーツ実技6	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	3	30	1		○	○		○	
79		○	スポーツボランティア実習3	ボランティア活動等に参加し、業界知識の習得や業務内容の体験を行います。選※	3	30	1		○		○	○	
80		○	インターンシップ3	就職活動に有益となる業界知識の習得や業務内容の体験を行います。選※	3	60	2		○		○	○	
81	○		成果発表	卒業展示会に向けた成果発表のための資料展示および発表準備を実施します。	3	60	4	○		○		○	
82		○	内定先研修	スポーツ関連企業での就業体験を行います。選※	3	60	2		○		○	○	
83		○	スポーツ自由研究E	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	3	30	1		○		○	○	
84		○	スポーツ自由研究F	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	3	30	1		○		○	○	

85		○	キャンプインストラクター実習C	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。選※	3	30	1			○		○		○	
86		○	マリン実習C	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。選※	3	30	1			○		○		○	
87		○	スキー実習C	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	3	30	1			○		○		○	
88		○	スノーボード実習C	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	3	30	1			○		○		○	
89		○	キャリアアップセミナーI	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	3	15	0			○	○			○	
90		○	キャリアアップセミナーJ	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	3	30	1			○	○			○	
91		○	キャリアアップセミナーK	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	3	45	1			○	○			○	
92		○	キャリアアップセミナーL	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	3	60	2			○	○			○	
93		○	短期海外研修C	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。選※	3	60	2			○		○	○		
94		○	MFCスタッフ実習3	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。選※	3	120	4			○	○		○		

合計	94 科目	4200時間 単位（単位時間） 204単位
----	-------	--------------------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：卒業時に必修科目2070時間(129単位)および選択科目330時間(12単位)以上取得し、合計2400時間(141単位)以上取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：1年次は必須750時間、選択科目50時間以上履修すること。 2年次は必須690時間、選択科目110時間以上履修すること。 3年次は必須630時間、選択科目170時間以上履修すること。	1 学期の授業期間	15 週

選択科目の履修方法

1年次は必修750時間、選択科目50時間以上履修すること
2年次は必修690時間、選択科目110時間以上履修すること
3年次は必修630時間、選択科目170時間以上履修すること
必選別の後の※印があるものは授業時間割外で実施